

お遍路日記 バイク編

目次

お遍路の切符	1
一日目 法輪寺	2
二日目 切幡寺	6
三日目 太龍寺ロープウェイ	9
四日目 雪溪時が見つからない	12
五日目 旅は道ずれ金剛福寺	15
六日目 雨の県道21号	17
七日目 焼山寺はやはり・・・	19
八日目 ミラー折れる	21
九日目 ナンシーおじさん	25
十日目 またコケた	29
十一日目 お守り貰っちゃった	32

お遍路の切符

再発した膀胱癌の治療の痛みも消え、ステロイド剤の副作用もおさまった。ダイエット効果も出始めた。毎日千段の石段の昇り降りのおかげか、体力もほぼ回復した。膀胱フアイバー・尿検査・血液検査にも特に異常は見られない。前立腺癌は薬物治療で落ち着いており、PSA値は検出限界以下だ。最終的には出発予定日一週間前の診察結果を待たねばならない・・・が行けそうだ・・・。二度目のお遍路・・・バイク旅。

三年前に四国遍路を野宿で歩いて結願した。通し打ちで高野山にご報告するまで五十五日かかった。途中台風二度襲われた。残暑も厳しかった。熱中症一步手前になり朦朧として歩いた。疲労と寝不足で鐘楼を降りる時、石段を踏み外し顔面を打って唇を切った。手水場を血だらけにしたがリタイヤはせずに済んだ。両足にマメが出来て毎晩テントの中で潰した。たまに入る風呂は嬉しかったが、マメに滲みてガニ股で洗い場を歩いた。

信仰心があつた訳ではない、悩み事があつた訳でもなければ人との出会いを求めた訳でもない。ただ四国千二百㌾の遍路道を歩き通してみたかった。やるからにはと、お遍路の作法は守った。菅笠・白衣・金剛杖で服装を整え参拝、読経、納経を愚直に繰り返した。特に読経は最初からはつきり声を出し、お遍路になりきろうと努めた。

結願をして得たもの、それは「見えざる者の意思」と「縁の不思議」だった。日常を離れ遍路道を歩き札所を廻りお経をあげる。それしかない、このシンプルな状況に身を置くと、普段ネバネバした欲で覆われていた様々な物が剥ぎ取られ、これらの不思議が浮かび上がってくる。それをゾワゾワと肌で感じる事が出来る。

お遍路終盤ではまた来たいという気持ちから、また来ようという決心が変わった。でも次回はバイクだ。歩きは辛い。バイクならヘルメットなどの装備の着脱は面倒だが移動は速い、狭い道を走り抜ける機動力もある。歩きでは出来なかつた寄り道も出来る。

遍路から戻るとすぐにバイクを購入し二度目のお遍路の準備を始めた。バイクはホンダのSIADOM750。足着きが良くロングツーリングに適した大型のアメリカンタイプ、エンジンはクツインだ。妻は最初怒り、やがて呆れ、そして諦めた。

バイクはスポーツだ。頭の先からつま先まで全身・五感を使って操る危険な乗り物だ。勘を取り戻すための練習を始め、慣れて来たところで北海道一周、四千㌾を走りこんで自信がついた。その矢先だ、膀胱癌の再発が発覚した。二度目のお遍路の切符を掴んだと思った。しかし次の瞬間、切符は指の間をすり抜けハラリと落ちた。

和歌山フェリーターミナル八時二十五分発の徳島行き南海フェリーに乗る為に、自宅を午前三時に出た。雨は降っていない。妻は寝ている。暗闇の中、名阪国道を走り、奈良の天理から京奈和道に乗り換え和歌山港を目指した。名阪国道も京奈和道も無料の自動車専用道路でまるで高速道路だが最高速度は60km/h。そこを皆80km/h近いスピードで走っている。和歌山港まで約200km、4時弱の夜間ツーリングだ。

ターミナルには七時少し前に着いたが窓口は閉まっていた。受付開始の七時半までうろっていると、とんでもないお知らせ看板に気づいた。・・・現在船舶定期検査の為に間引き運航となっており、次の便は何と午後一時四十分発で徳島港着は午後三時五十五分・・・とあった。危なかった下手したら一日無駄になる所だった。

実はこの南海フェリー、オートバイはネットで予約が取れない。先着順で溢れば次の便になる。通常時なら次の便は2時間後なので、渋滞に巻き込まれたりして遅れても構わない・・・そんな気持ちで走ってきた。やれやれ助かった。それにしてもネットに出てたかなあ。直近は見えていなかったたので多分見落とした。

受付を済ませ県道を挟んだ乗船待ち場所へ移動、指示された番号四番と書かれた列に止めた。受付一番なので当然先頭である・・・はずなのに中型のスクーターが一台、乗船スロープの脇に停まっている。横にヘルメットを被った男が座っていた。列に並んでいれば、大概挨拶してちよっこっと話しかけるのだが、列から遠くはみ出しているので関係者なのだろうと放っていた。スロープの反対側では老人達が釣りをしている。何が釣れるのだろう？気になったが暑いので日陰に移動し休んだ。



南海フェリー「あい」

<https://youtu.be/kr7Wd1fn1Wg>



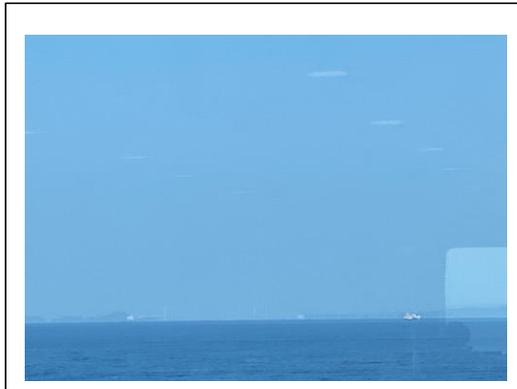
4番でフェリー乗船待ち

乗船時間が迫ってくると乗用車やトラックが列に並び始めた。フェリーも乗船口を開けて待っている。スクーターの男はヘルメットを脱いでのんびりしている。乗船誘導係がトランシーバーを使い始めた。もう直ぐだ。誘導係がスクーターの男に近づき話しかけた。県道の向こうの切符売り場を指差している。男は慌てた様子で切符売り場の方に走っていった。どうやら関係者ではなく、切符の買い方を知らないただの人だった様だ。ガイドライバーの片山右京が若い頃、アメリカで修行がしたくて、空港のカウンターに行って「アメリカ大人一枚」と言ったという話を思い出した。男は売り場から戻るとぐるりと回って私の後に並んだ。結局この便のバイクは二台だけだった。

久しぶりのフェリー乗船でコカさないか緊張したが無事乗船出来た。船内で少し寝るつもりだったが全く眠れなかった。今回の旅のスケジュールを再確認し、淡路島を眺めている内に下船アナウンスが聞こえてきた。



乗船しました



青い空、青い海

初日はやる事満載だ。一周して戻った時もしかしてテント泊するかも知れない道の駅「くるくる鳴門」をチェックしたり、ガソリン給油と一緒に携行予備タンクも本にも給油してもらおう。一番壺山寺で両替してもらいお賽銭も用意しなければならない。荷物を参拝モードに積み替えなければならない・・・等など。

予定通り打てるか不安だったが平地で近接していたので、八幡熊谷寺、九番法輪寺と〆札所を余計に打てた。おかげで予定していた野営地「おもてなし公園内の土成遍路小屋」は使えず、探さなければならなくなった。バイクなので戻っても良いのだが・・・。

法輪寺の納経所では午後五時間近だった。ひよっとしたらと思っ聞いてみた。

「この辺りでテント張れる場所ご存知ありませんか？」



ライダースーツの上に白衣を着ています



法輪寺の外廊下にテント設営
バイクも境内に入れ、野営準備完了

「空海なんとかいう所があったと思いますよ」
「遍路小屋の空海庵、あそこは水もトイレも無いんで、歩きの時辛かったです」
「・・・だったらここはどうですか？」 屋根付きの外廊下を指差しながら
「いま住職は出かけてますけど五時には戻るので、あたし話しておきますよ」
「エッ良いんですか？ありがとうございます。食料仕入れて五時過ぎに戻ります」
と即答。
願ったり叶ったり。戻ると・・・あー聞いてますよと・・・若いご住職が奥から出て来てくれた。・・・直ぐに
「テントはここでも、あそこでも好きな所に張って下さい。水はあそこ、トイレはこっちで鍵は開けておきます。センサーでライトが点きますから自由にどうぞ。電気のコンセントはココ、扇風機もご自由に。バイクは中に入れてそこに置いたら良い、そのまま裏口から出られます。お墓があるので蚊が多いです、気をつけて下さい。何かあったら大声で呼んで下さい」
・・・もう至れり尽せりでかえって恐縮した。感謝しか無い。おそらく法輪寺のご住職は遍路の経験がある。しかも野宿遍路だろう。その大変さと必要なものの全てが分かっているようだった。大日寺で蠟燭に火が点かなくてグズグズしている時に、直ぐにライターの火を差し出してくれた若い男がいた。本格的な遍路の出で立ちで彼も僧侶か？、あるいは僧侶の卵だったのだろうか。お遍路は僧侶になる為の必要条件ではないらしいのだがやるべきだと私は思う。しかも歩きで・・・。
初日は夜中から走り出し、炎天下の中、九札所を打った。走行距離は300kmを超えたらう。疲れてオシッコが茶色になってしまったが、最後に助けて頂いた感謝の日だった。
・・・お寺の境内の中なのだが・・・酎ハイが美味しかった・・・また明日。

朝荷造りした後、法輪寺の本堂にお参りし、ご住職の住居に向かって手を合わせてから六時に出発した。昨夜はあつという間に眠りについたが何度も目が覚めて、あまりすっきりしていない。まあ膀胱癌の治療以来大体こんなもんだ。気にしてない。

六時に出発したのには訳がある。札所の納経所が開くのは午前七時だからだ。それまでに参拝を済ませ納経所の前で開くのを待つつもりだった。これは歩き遍路の時と同じで少しでも一日を有効に使いたいという思いからだ。おまけに今日最初の札所「切幡寺」は参道入り口から本堂まで三百三十三段の石段がある。・・・これより三百三十三段・・・の石碑もある。早めに着いて昇らなければならない。その為に毎日千段の昇降を繰り返し準備してきたのだ。でも三百三十三段なんてお遍路では優しい方だ。本番はこれからだ。

切幡寺の参道入り口は狭い駐車場になっている。石碑もあった。その左手の先にまだ昇って行けそうな細い上り坂が続いていた。ちよつと迷ったがそのままバイクで入ってみた。舗装はされているが狭い。車一台がやっとだ。それが急な上りのヘアピンカーブの連続で正直焦った。しかし行けるはずだと気力を振り絞ってスロットルを回して昇った。

間も無く『車止め』の立て看板が見え、手前が狭い駐車場になっていた。本堂は直ぐそこだ、屋根が見える。梓線が引いてあり車三台が駐車出来る。立て看板の向こうはまた急な坂でその先に立派な車庫があった。車庫にはレクサス、ワゴン、もう一台外車が収まっていた。こんな急で狭い坂道をこんな大きな車が昇れるんだと感心した。そりゃあお寺の人にも生活があるからな、毎日レジ袋下げての三百三十三段は厳しいだろう。

本堂と大師堂の参拝を済ませ、ベンチに座って納経所が開くのを待った。腰の曲がったお年寄りが境内を掃除している。七時になったので納経所に入って行くと、暗くひっそりとしている。窓口も閉まっている。こういう場合は・・・ブザーボタンを押して下さい・・・という貼り紙があるはずだ。見回すとあった。しかし貼り紙には・・・納経所の営業時間は午前八時から午後五時までです・・・と赤字で書いてあった。変わったのだ。知らなかった、こんな基本的な八十八札所共通のお遍路にありがたいルールが会社の勤務時間の様に変わってしまったのだ。今回の十四日間のバイク遍路のタイムスケジュールの一日の始まりは、全て七時納経所で計画した。打てない札所が出そうだ。否それよりどうする一時間空いてしまった。移動して他の札所を打って戻ることも考えたが、さっき昇ってきた急勾配・ヘアピンカーブをバイクでまた昇り返す気にはなれず寝て待つことにした。

ベンチで横になり目をつぶってうとうとし始めたところで、砂利を踏む足音が聞こえてきた。中年の女性が本堂に向かって歩いて行き、手を合わせてまた直ぐに引き返して石段を降りて行った。息は切れていなかった。頭をコツンと小突かれた様な気がした。

・・・何をやっているんだ？この日の為に辛い千段昇降をやってきたではないか！

なんてザマだ。直ぐに三百三十三段降りてまた昇ってこい！行け！・・・

という訳で、三百三十三段をバイクで回避出来たと思ったのだが、そんなに甘くなかった。ちなみに掃除をしていた背の曲がったお年寄りが納経所の方だった。

さて、今日はもう一つ越えなければならぬ試練がある。遍路転がしで有名な焼山寺だ。歩きでは痛い目にあっている。バイクなら楽かというところではない。歩き遍路道と車遍路道はもちろん違う。それぞれに色々なルートがあり、難易度が異なる。どれを選ぶかは自由だ。歩き遍路は車遍路道を歩いても構わないが、歩き遍路道を車で走るとは物理的に出来ない。焼山寺への車ルートは何種類かある。順打ちで十一番藤井寺の次に十二番焼山寺を打つ一番近いルートは事前に調べた限り危険なので止めろ！だった。通常車遍路の場合ここだけ逆打ちする。つまり十一番の次は十七、十六、十五、十四、十三そして十二番焼山寺だ。遠回りな様だが逆打ちしながら行くので、安全かつ最短時間で打てる。そうは言っても山道だ、そこそこ大変だったのが無事駐車場にたどり着いた。

歩き遍路も山を昇りきってこの駐車場のすぐ脇に出でくる。そして・・・本堂まで一km・・・の看板を見てため息をつくのさ。かつて私はこの道を重いリュックを背負って這う様に走った。午後五時十五分前だったからだ。石段は手摺りにすがって昇り、参拝を後回しにして納経所に直行した。五時五分前だった。

下山は日が暮れかかっていた。途中犬の散歩している多分お寺関係の女性から、遍路道は危ないから車道を歩きなさいと言われたが、早く下りたかったので遍路路に踏み込んでしまった。歩いているうちに日がとっぷり暮れた。ヘッドライトは登山用ではないので暗く先がよく見えない。一步踏み出す度に靴底からザワザワと何か動いて逃げて行く様な感覚を味わい、じっと見られている様な視線と出て行け！早く出て行け！という圧力を感じた。怖かった。この時間帯は人間のものではなく山のものだと教えられた。

駐車場に戻る時、大きなリュックを背負ってうなだれて昇ってきた若いお遍路に出くわしたので声をかけた。

・・・大変だよ、歩きは、頑張つて！・・・すると

・・・心折れました。途中で寝ました・・・だとさ。良い経験したね。



道の駅ひなの里にテント設営、夕食準備中



夕食の五目ご飯と日記帳



切幡寺の本堂



切幡寺紅白の百日紅

焼山寺でもうひとつ。納経所でのことだ。私は二度目なので納経帳には重ね印だけで良いので、値上がりしたとはいえ三百円のはずだ。しかし

・・・当山では重ね印も五百円頂いております。バイクの駐車料金は二百円です・・・と目を合わせず事務的に言われた。共通料金じゃないのか？ムミときだが仕方ないので七百円払ったが、・・・実に・・・嫌な奴・・・だった。

二日目も色々あった。井戸寺で自分の顔が井戸の底に映ってホツとしたり、立江寺で出会った頭にコケそうになったり、雨に降られたり、盛り沢山でした。

・・・また明日。

昨日は道の駅ひなの里かつうらの広い軒下にテントを張った。道の駅に着いたのは丁度五時を過ぎた所、閉店直後の良い時間に入れた。少し待って店の電気が消え、店員さん達が帰った後、軒下の一番広いスペースにテーブルや椅子を引き摺ってきて、荷物をぶちまけテントを張った。バイクも軒下に入れた。これで雨が降っても心配なし、万全の準備で備えた。案の定一晚中土砂降りになったが明け方には星が出た。

大概、道の駅は九時開店なので八時頃から準備が始まる。農家の搬入はもう少し早いで遅くとも七時までにはテントを撤収し荷物を片づけ、借りた物を元の位置に戻して・今回の場合はテーブルと椅子・掃除しておけば大丈夫だ。・だがこの道の駅は七時開店だった。五時過ぎに店内の電気が点いたので、何かと思って店員さんに聞いて分かった。テントは撤収済後は荷物を整理して荷造りすれば良いだけだったので、それ程酷い迷惑のかかる状態ではなかったが出発準備を急いだ。店員さんは・良いですよ・と優しく言ってくれたが、甘えてはいけない。・・というドタバタが朝一であった

鶴林寺は山の上だ。難所のひとつに挙げられており、車道の手強さもなかなかのものだった。急勾配・急カーブ・ヘアピンがこれでもかという程続く。救いは道幅が広がったのと、朝早かったので対向車が無かったことだ。走行ラインが自由にとれた。最後の急勾配のヘアピンを曲がると駐車場に着いた。車は一台も無い。帰りに一番出し易そうな場所に停めた。この選択はとても大事だ。私のバイクは空車で240キロある。ガソリン・荷物満載重量は恐らく300キロ近い。バックが出来ないのでヘタな場所に停めると、倒れたり、一人では出せなくなってしまう。選べるのはとても有り難い。駐車して振り返るとバイクが木漏れ日を浴びて輝いていた。一仕事終えたぜ・バイクの呟きが聞こえる。



八時に納経所が開くのを待つつもりで本堂・大師堂の参拝を終えた。大師堂の階段を降りようすると「おはようございます」と声がかかった。納経所の係りの方だった。

「良いですよ！どうぞ！」

納経所の窓を開けてくれた。まだ八時までで三十分もある。有り難い。

「良いんですか？ありがとうございます。なんか八時からになって参ってしまいます」

「そう決まっちゃったようで困りますね、お遍路さん大変ですよね」

とても穏やかな表情のお年寄りの女性で笑顔が可愛らしかった。お遍路目線で考えられる方で、恐らく柔軟に物事を捉えられる方なんだ。それが顔に現れて美しい。

『・・・決まりは決まり・・・だけど私はちよつとくらいはみ出したって良いじゃないって思うのよ・・・』・・・みたいな感じか。柔らかな頭は美しくなる秘訣のようだ。

駐車場に戻るとバイクの横に白い軽ワゴンが二台停まっただけで運転席に人がいた。納経所、もう受付てもらえますよと伝えようと近づくとお遍路さんではなかった。ガードマンさん達で、これから四国電力が電線に掛かりそうな木の枝打ちをするので交通整理をするとのことだ。

「いいねえバイク！俺も乗りたいよ」などと窓越しに言う。しばらく話して別れ際に：

「貰い物だけど、持ってけ！」・・・と玄米煎餅を一袋お接待してくれた。感謝。

二十一番太龍寺も歩き遍路には難所のひとつだ。二十番鶴林寺まで急な山道を上り、一度谷底まで下ってからまた登り返さねばならない。しかし今回はバイクでも登らず、憧れのロープウェイを使った。乗ってみたかったただけなのだが・・・。全長2775m[≒]西日本で最長、山を超え川渡る。昨夜の雨が空気を綺麗にしてくれたので晴天の眺めは最高だった。しかもアナウンスガイド嬢付きだった。客は二人だけだった。



いい天気になりました



当日の動画もご覧頂けます

<https://youtu.be/2w8Qit16oVY>



ガードマンにもらったお煎餅



行頭公園にテント設営



夕焼け



質素な夕食、ビールで乾杯

参拝を終え、下りのロープウェイを待っていると、年配のご夫婦から声を掛けられた。「何度もお会いしましたね。バイクで廻っておられんですか・・・」

そういえば参拝の時よく会うなと思っていたお二人だった。四度目のお遍路、しかも川崎から車を運転して来たというから凄い。観光を兼ねてのんびり走って来られたのだろう。このご夫婦とは二十三番薬王寺でもお会いした・・・そして

「私達は今回はここまでです。お気をつけて！」と手を振られ別れた。区切り打ちを楽しんでおられる素敵なお夫婦だった。

今日は駐車場から本堂まで遠い札所が続いた。二十三番薬王寺、二十四番最御崎寺、二十五番津照寺、二十六番金剛頂寺何処も梯のような急な石段ばかりだった。歩数計は一万三千を超えた。バイク遍路ちっとも楽しめない。しかし三日目で室戸岬をくると回ってしまった。平等寺から室戸岬先端の最御崎寺まで約九十百を走り切ってしまう機動力は素晴らしい。今、更にその先の行頭岬の行頭公園にテント泊してる、今夜屋根は無い。

・・・また明日。

夜露に濡れたテントを乾かし、少し遅く行頭公園を出発した。

最初に向かった札所は車遍路難所の一つ二十七番神峯寺だ。寺までの車道は歩き遍路道と交差しながら昇って行く。歩き遍路の時、こんな道、車で絶対走りたくないと思った。狭く、急勾配、急カーブというよりヘヤピンの連続だ。ユカすことは無かったが緊張からエンストを一回して駐車場にたどり着いた。心拍数は100を超えた。アップルウォッチが壊れてしまったので最近買い換えたガーミン社の「GENE3」のセンサーは優れたものだ。リアルタイムで心拍数を表示してくれる。良いんだか悪いんだか、ドキドキが見える。激しい運動をすればもちろん上がるし、こうして緊張しても上がる。

神峯寺の本堂は駐車場から遠い。石段を昇って行くと途中に手水場がある。この水は神峯の名水と呼ばれていて、冷たい湧水が勢いよく流れている。清めると共に少し喉を潤す。反対側には納経所がある。更に石段を昇って、ようやく本堂、大師堂は又石段を昇かスロープを歩いてやっと辿り着く。分かっていたが朝一番から厳しかった。

歩き遍路の時にはあまり気にならなかった高台にある本堂、少し離れて大師堂というパターンが、バイク遍路ではクローズアップされ厳しい。歩き遍路は常に苦しいので目立たないがバイク遍路は苦楽の落差が大きいだらう。・・・また石段を昇るのか？、どうしてもため息が出てしまう・・・分かっているのだが・・・。炎天下の石段は辛い。

二十八番大日寺、二十九番国分寺、三十番善楽寺、三十一番竹林寺、三十二番禅師無事と順調に打った。

ところが三十三番雪溪寺で迷子になってしまった。歩きの時は無料の渡船で浦戸湾を渡って、船着場から真っ直ぐ歩いて行けば雪溪寺に着いた。しかしバイクは渡船が使えないので浦戸大橋を渡るのだがナビがあらぬ方向を案内した。最初はナビに従って走ったがどんどん離れて行ったので、無視して感で走った。記憶にある歩き遍路の道を探したが、同じところを廻ってしまい、ますます分からなくなってしまった。午後五時も迫ってくる。仕方がないので信号で止まった時、地元の人に聞くと直ぐ着いた。近くをグルグル廻っていただけだった。

雪溪時を打ち終えると五時を過ぎた。予定していた種間寺と清瀧寺は明日に持ち越して、野営地の千本松公園の無料キャンプ場に向かった。キャンプ場の入り口には大きな立て看板があり、南海トラフの影響で海水浴場は閉鎖中と書かれていた。おまけにバイク乗り入

れ禁止とあった。・・・面倒な所だなあ・・・。

入り口近くのトイレは古くて汚れているように見えたので・・・ここはやめた。

来る途中にあった津波避難タワーに野営することにした。近くにコンビニもある。歩き遍路の時に津波避難タワーには何度かテントを張らせてもらった。屋根もあり中々快適だった。

タワーの下にバイクも乗り入れ、全ての、荷を降ろし、テントを張った・・・ところで、何処からともなくお年寄りが現れた。

「ここは駄目だよ。そういう所じゃないから、キャンプ場に行きなさい。」

「キャンプ場は南海トラフで閉鎖中の看板が出てましたよ」惚けて抵抗してみた。

「そんなはずはない。兎に角此処はそういう所じゃない」

キャンプ場へ行けを繰り返すので諦めた。テントを撤収し散乱した荷物をまとめ、バイクに積み直し、千本松公園に戻った。

キャンプ場は細長く意外に広がった。案内板を見ると一番奥に広い駐車場があり、トイレとその近くに水場もあったので行ってみた。バイク乗り入れ禁止なので、荷物を降ろして20^分離れたテント設営場所のベンチ椅子まで数回運んだ。トイレをチェックすると洗浄器付きで新しく綺麗だった。・・・日は暮れかかっていたので直ぐにテントを張って着替えた。

疲れていた。いつものように簡単な夕食と酎ハイを飲むと、キャンプチェアに座ったまま意識を失うように寝てしまった。気がつくあたりは真っ暗だった。ちよっと離れたところでライトが光っていて、何やらガチャガチャやっているが・・・どうでも良い。テントに潜り込んでまた寝た。

今日はトラブルが続いた。家内から「^コのリモコンが動かないなんて電話があったり、道に迷ったり、テント場を追い出されたり・・・。

でもこんな事もあった。雪溪寺では年配の女性から・・・単車で廻っているんですか?・・・と声を掛けられた。単車という言い方が懐かしく嬉しかった。コンビニではこの辺でしか買えない「氷」にまた会えた。歩き遍路では随分お世話になった。暑さと乾きで、首に当たったり、おでこに当たったりしながら貪るように食べたっけ。

・・・おしまい・・・また明日。



二十七番神峯寺の仁王門



また会えた氷！これが美味しい



姉との約束、ボケ封じのお願い

昨日打ち漏らした三十四番種間寺と三十五番清瀧寺からスタート。清瀧寺は又又又車遍路の難所の一つだ。しかし昨日神峯寺をクリアしているので何とかなるだろうという軽い気持ちで山道に入った。狭い、急勾配、急カーブ、ヘアピンに加えて路面が荒れていた。バイクには最悪の条件が揃っていた。この山道で下山してくる乗用車三台とすれ違った。良くコケずにやり過ごせたもんだ。しかし一向に上手にならないな。相変わらず心臓をバクバクさせながら、いったん停止してからやり過ごす。大体、荷物満載の大型のオンロードバイクでこんな山道に入るのがそもそも間違いかも知れない。嫌だ嫌だ難所はまだまだ続く、こころ旅の火野正平じゃないけど・・・お家に帰りたい・・・。

三十六番青龍寺の駐車場は平地にあるが、本堂は覆いかぶさって来るような石段を登らなければならぬ。しかも石段の段差は横綱朝青龍に合わせたかのように広く大きい。ただただ俯いて昇るしかない。途中にある手水場にチョロチョロ流れる水は冷たくて口に含むと美味しい。コップに受けて飲みたいくらいだった。

三十七番岩本寺へは歩き遍路の時、夜中フラフラになって歩いた横浪スカイラインではなく、浦ノ内湾を挟んで、反対側を通る県道二十三号線を走ったが失敗だった。なんていうことのないカーブが多いだけの道路で景色もつまらなかった。やはり海岸沿いを走る横浪スカイラインにすれば良かったかな・・・でも一度歩いた道だし・・・。

須崎から四万十中央まで高知自動車道の無料区間を走ると、たちまち岩本寺に着いた。岩本寺は歩きの時、駐車場の物置に一泊させてもらった有り難いお寺だ。でも、それはそれとして、このお寺の天井画はいただけじゃない。30センチ角程の区画に落書きとまでは言わないが、小学生のお絵かきコンクールのような絵がバラバラに収まって、天井一面を覆っている。これがこの岩本寺の売りらしいのだが、私は直ぐにやめた方が良いと思う。宿坊もあるようだがこのセンスでは期待できない。

このお寺は外国人に媚びるような演出が多い。以前は道路から境内に上がる石段全てに英語の案内が **welcome** だ何だと書かれた紙がベタベタベタと貼られていて不愉快だった。今回それは無くなっていて代わりに竹灯りの竹が石段全てに横に這わせてあった・・・この寺の住職は●ナノカ？・・・これが良いと思うその感覚を疑う。

さてこの岩本寺の駐車場で出会った品の良い年配の二人連れのお遍路と足摺岬の三十八番金剛福寺でまた会った。

本堂の上から大きく手を振っている女性が見えたが、まさか自分に振っているとは思わなかったので無視していた。すると二人連れの良く喋る方の女性が近寄ってきて・・・岩本寺で会ったじゃない・・・と言われ、やっと気がついた。この良く喋る女性はお遍路に全く関心が無いようだ。

「あたしはただ付いてきているだけ、お遍路興味ない、参拝もしない、車の運転もしないの、隣に座っているだけ」

などと言っていた。何も聞かれないのに良く喋る、連れてきた理由がわかった。

『・・・あなた、あたしと一緒にお遍路さん行かない？・・・良いの運転しなくて、あたしが全部やる。宿代も出すわ、一緒に行ってくれないかしら？助手席に座っていてくれれば良いのお願い、一緒に行って。・・・良いの？本当？ありがとう嬉しい。楽しい旅になりそうだよ』。・・・みたいな。

また何処かで会うかも知れないですねと手を振られたので、今度はしっかり手を振り返して別れた。

テントは以布利漁港のじんべい広場に張った。この漁港には研究用のジンベイザメを飼育している大きな施設があり、道路を挟んでこの広場がある。ここは野宿の歩き遍路の聖地と言われている。水、トイレ、コインシャワー、イベント用の屋根ある広いスペースがある。・・・にもかかわらず今日も私一人で独占だ。

久々に温水シャワーを浴びて石鹸で体を洗いさっぱりした。夕食の耐ハイは格別だった。夜中にバラバラと物凄い雨音がして目が覚めた。通り雨だった様で、間も無く止み星が出た。天気をチェックすると台風十三号が沖縄を通り台湾へ抜けるらしい。その影響がありそうだ。嫌だが雨を覚悟しよう。・・・また明日。



施設の屋根の下にテント設営



蠟燭を灯して夕食

じんべい広場を三十九番延光寺に向かって出発すると直ぐ雨が降り始めた。小雨だとたかをくくっていたら山道に入ると本降りになった。

延光寺へ向かうルートは暫く海沿いに走った後、山道に入る所で二手に分かれている。県道46号と県道21号だ。地図上46号は低い峠越えでひよっとすると未舗装、21号は川沿いの道で途中に三原キャンプ場がある。距離はあるが走り易そうだったので事前に調べた通り21号に入った。

今となつては分からないが結果的に雨の県道21号は最悪だった。最初はセンターラインもあり広がったが、直ぐ車一台しか通れない様な細い道に豹変した。雨も激しくなってきたので、路肩に停めて、荷物にカバーを被せた。予め荷物には防水スプレーを吹いていたが念のためだ。でも濡れて困るものは全てビニ袋か圧縮袋に入っているのですぐ濡れになつても心配はない。手遅れ気味だったが雨合羽を上だけ着た。

強い雨と風で道路には枯葉と枯れ枝が敷き詰めた様になっている。路面も荒れていて危険な状態だ。辛うじて車の轍二本分は舗装面が見える、外さない様に走った。それでも所々太い枯れ枝が転がっていて何度か引っ掛けてしまった。ハンドルは取られたが転倒は免れた。スピードは出せない。曲りくねつたこの道が18百続いた。途中工事業者のワゴン車一台すれ違つただけだったので助かった。三原キャンプ場なんていつ通り過ぎた分からはなかつた。・・・参つた。

雨は三原村を過ぎた辺りから降つたり止んだりになり、延光寺参拝後、一度激しく降つた後晴れた。でも今度は蒸し暑さで体力を消耗した。バイクシューズは防水のはずなのに中まで濡れてグシュグシュになった。歩く度に爪先から細かい泡が出た。

四十番観自在寺、四十一番龍光寺、四十二番仏木寺、四十三番明石寺までは晴れてくれたが、久万高原の四十四番大宝寺に向かう途中からまた降り出した。少し乾いてきたのにまた濡れた。

テントは道の駅「天空の郷さんさん」に張つた。ここは歩き遍路の時二泊している。軒下が広く、コンビニやドラッグストアが近接していて、とても条件が良い。五時きっかりに閉店してくれるのも野宿のお遍路さんにはありがたい。

食料と虫除けスプレーを仕入れて戻ると、店の灯はすっかり消えて店員さん達も引き揚げていた。早速テントを張り、着替えて濡れた服を立ち入り禁止のロープに干した。

夕食は大根サラダにドレッシング代わりにポテトサラダを混ぜた、ぐちゃぐちゃサラダとオートミールをコーンスプで戻したおかゆ、そしてビールと缶酎ハイだ。

疲れていたののでいつ寝たのか覚えていない。話し声と音楽と寒さで目が覚めた。この旅で初めて寝袋を出して潜り込んだ。時間は午後十時を過ぎていた。うるさくて眠れない。我慢して様子を見ていたが、話し声と音楽は止みそうも無い。

嫌だったが、本当に嫌だったが注意することにした。騒いでいたのはほんの30程離れたイベント用のタープの中だった。日本人らしい若い女がインド系の男の肩に腕を回し、二人でスマホの動画をみて騒いでいた。テーブルの上には缶ビールとつまみが散乱していた。近づいて

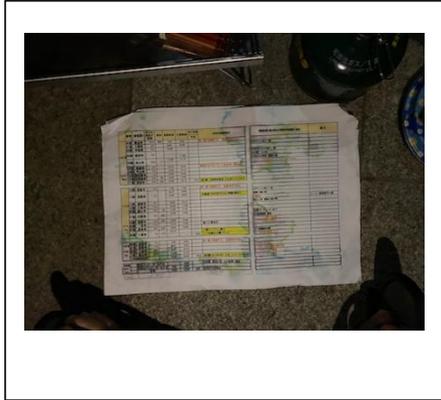
「うるさい、静かにしてください・・・」すると女が直ぐに私を睨み付けながら

「申し訳ございませんね」・・・と大声で被せてきた。

「もう十時過ぎている、良いおとなが・・・」するとまた

「申し訳ございませんね」・・・と睨みながらまた被せてきた。かなり酔っている様なのでそれ以上は危ないのでやめた。しばらくすると自分の車に引き揚げて行ったらしく静かになった。タープの横に停まっていた車中泊の車は窓を閉めれば我慢出来たかも知れないがテントは音は筒抜けなので無理だった。

今日は散々な日だった。最悪の山道で雨に降られる、帽子を紛失する、変な女には睨み付けられる、極め付けは何故か**財布**の中から札だけが消えていた。確か千円札が三枚残っていた筈なのに無くなっていった。・・・色々考えたが、どうやらコンビニの自動支払機で五千円入れてお釣りの札だけ取り忘れたらしい。・・・残念。まあコケたり事故らなかつただけでも良しでしょうか・・・また明日。



濡れてしまったタイムスケジュール表



夕食：質素というより粗末

最初に岩屋寺へ向かった。八時に納経所前に列べる様に、道の駅を七時少し過ぎに出た。岩屋寺の駐車場まで20分、石段を30分昇って本堂と大師堂を参拝すると丁度良い時間になる筈だった。ところが岩屋寺の参道の石段は思った以上に厳しかった。途中若い男二人に抜かれ、納経所に着いたのは八時を十分も過ぎていた。歩き遍路の時はこの参道を逆に下った。ずっと手前の八丁坂を登り尾根伝いに岩屋寺の真上に出て、下りながら本堂に出たからだ。覚悟はしていたが、若い人には敵わない。

岩屋寺を出るとまた雨、でも久万高原を走って下るにつれ、徐々に雲が切れ始め、やがて太陽が出て、また厳しい暑さになった。もう汗を拭うのも無駄、嫌になる程の陽射しで松山市内の札所は平地が多く楽な筈だが辛かった。五十一番石手寺の近くで裏道にバイクを停めて「母恵夢」をお土産に買った。バイクに戻るとお年寄りが話し掛けてきた。

「・・・自分も以前ハーレーに乗っていた。でもこんなになってしまっただけ乗れなくなっちゃった・・・」麻痺して丸まった右手が胸の辺りにぶら下がっていた。私のバイクをみて懐かしそうに話していたが、ちよつとヤバイ所に停めていたので早々に切り上げてしまった。後でもう少しお話を聞かせて貰えば良かったと悔いた。

五十二番太山寺の参道はまず一ノ門をくぐり、山門をまたくぐりようやく駐車場に辿り着く。そこから本堂まで急な登り坂がダラダラ長く続いて最後に石段が待っている。つまりああ大山寺に着いた・・・と思って安心してはいけないことだ。ここの坂でも中年の男性に抜かれた。歩き遍路の時はこの参道を地元のお年寄り達に・・・急げば間に合う、頑張れ、先に納経所に行くんだぞ！・・・と励まされて懸命に走った。・・・懐かしい。

今日予定していた「しまなみ海道」は体力的に無理と判断し、延命寺を打った後、野営場所の道の駅「今治湯ノ浦温泉」を目指した。途中、五十六番泰山寺の標識が見えたので打って行こうと欲が出た。泰山寺は平地にあり、楽に打てることは知っていた。

参拝を終え納経所で重ね印をもらった。千円札を出すとお釣りが五百円だったので、

「・・・ええ三百円じゃないの?・・・」

「あっ、ごめんゴメン、ボーッととった。この時間になるとよく間違っただよ」

気さくな爺さんだった。

「・・・五百円の所もあったんで、ココもかよ!って思った。」

「いや三百円だよ、ゴメンね」・・・と言って二百円返してくれた。

気になっていた事を聞いてみた。

「・・・納経料金が値上がりしたけど、これって八十八札所共通じゃなくて、あくまで基本料金に過ぎなくて、各札所で自由に決められるという事なんですか？」

・・・すると

「いや、共通だよ」

「でも五百円の所ありましたよ」

「何処やそれ？」

「言って良いんですか？」

「徳島か？」

「はい」

「・・・フンっ。焼山やろ！あっこは、しょうもない。皆で外したろうかてゆうとるんや」

やはり、焼山寺は嫌われていた。・・・だろうな・・・

「是非、外してやってください」・・・と言って泰山寺を後にしたが、遍路転がしで有名な焼山寺を外すことは多分出来ない。

道の駅「今治湯ノ浦温泉」も野宿のお遍路には優しい。国道を挟んで温泉があるのだが、ちよつと距離がある。今回も面倒なのでパスした。ガランとした屋根だけの東家と広いベンチのある東家が並んでいて、テントを張り、荷物を広げたり、濡れた服を干したり、が楽だ。バイクも側に停められる。今日も時間切れ、体力切れで二札所を残した。しまなみ海道も走れなかった。・・・仕方ないね・・・また明日。



夕暮れの野営場所の道の駅
歩道の向こうの丘の上に
湯ノ浦温泉がある。

補足：

帰りのフェリー乗り場で若い僧侶のお遍路と焼山寺について話した。「あそこは確にがめつい。お砂踏みの砂も二千円取られた。他はどうぞどうぞと分けてくれる。檀家を持たない寺だから経営が苦しいんだろう」と教えてくれた。・・・でも。

体がだるい。寝不足だ。用意してきた納め札が無くなったので、昨夜不足分六十枚を一気に書いたので殆ど眠れていない。テント撤収もダラダラやってしまい、出発は八時ちよつと前、雨も降ってきたのでカップを着て出た。昨日打ち残した札所を含めて、しまなみ海道を走る為に打つ順番を整理した。まず五十九番国分寺、五十八番仙遊寺、五十七番栄福寺、五十五番南光坊、しまなみ海道の順だ。

国分寺を打つと晴れた。積み残しの札所を打った後しまなみ海道を走り、伯方島に向かった。完璧に晴れて、青空と青い海、浮かぶ島々を結ぶ日本土木技術の結晶・吊り橋を堪能した・・・かと言うと・・・残念・・・高速で走るバイクはよそ見が出来ないので満喫出来たとは言えない。やはりこの海道は自転車が良い。自転車、歩き、原付バイクも車とは別の道を走る、しかも無料だ。安全に海道を味わうことが出来る。実際、伯方島の道には自転車乗りが沢山いた、外国人の姿も目立った。バイクを駐車場に残し、レンタル自転車もありかも知れない・・・でも着替えたり、靴を履き替えたり・・・無理か。

伯方の塩をお土産に買い、塩ソフトじゃない普通のソフトクリームを食べて海道を戻った。高速代往復三千二十円。これで予定を回復した。



伯方島から見たしまなみ海道



伯方の塩とソフトクリーム

さて、六十番横峯寺だ。車遍路最大の難所と云われている。狭い山道に入る前に大きな駐車場があり、運転に自信の無い人はここでタクシーに乗換える、タクシー代金千八百五十円。山道は横峰寺専用で有料道路になっている。車は千五百円、バイクは四百円。料金所で聞いてみた。

「今日はバイク通りました？」

「今日はまだ一台もない・・なあ」・・・同僚に確認してる。

「いつもはどうですか？」

「あんまりいない・・なあ」

ちよつと不安になった。なんか無謀な事をしようとしているのでは無いか？俺は。

「まあ気をつけて！」

「ありがとう」

天気は上々、突入した。道路は事前の情報通りの難関だった。狭くガードレールも無い、急カーブ、急勾配、ヘアピンの連続、これが8百続く。途中の怪しい分岐看板も事前情報で学習していたのでクリア。終点の駐車場が見えた。ホッとしたが入り口を下りの軽自動車に停車し塞いでいる。運転手は地図を見ていて動かない。左側には舗装面から10センチ下がって砂利道が敷いてありそこだけ広くなっていた。

行けるだろう、エイッとハンドルを切って砂利道に突っ込んだが段差は意外に大きくバランスを崩しコケた。後輪だけ舗装面に残り、大袈裟に言えば逆立ちしたような状態でバイクを倒してしまった。瞬間逃げたので怪我はしなかったが、バイクのミラーが根元から折れた。停車していた車から老人が降りてきて一緒に起こそうとしてくれたが、逆立ち状態なので駄目だった。するとタイミング良く登ってきた乗用車から、ガタイの良い中年の男性が降りて来てくれた。

「手伝いましょう、どこを持ってば良いですか？」

「途中まで持ち上げます、ハンドルを持って下さい」・・・一発でおきた。助かった。折れたミラーを拾って駐車場に入った。心拍数はMAXに跳ね上がり、暫く折れたミラーを持って、くっつけようとアホみたいに押し当てていた。・・・駄目だった。

少し落ち着いて来たので、・・・とりあえず先に参拝を済ませることにした。本堂は駐車場から細い道を800[㊦]下る。帰りが辛そうだ。本堂に着くときつき助けてくれた男性家族と会った。事故だと思っていたようで、状況を説明するとそれは酷い、でも怪我がしなくて良かったと言ってくれた。お礼を言って別れた。

駐車場に戻りミラー修理に取りかかった。クラッチとブレーキのレバーは、転倒した時に折れることを想定して予備品は持って来ていた。折れたらそこでリタイヤだからだ。ミラーは想定外だし万一割れてしまっても走れる。そのままでも良かったのだが、ボトルホルダーを利用すれば取付けられそうだった。フロントホークの**鞆乃万吉製**の**工具バッグ**に入れておいたビニールテープでボトルホルダーにぐるぐる巻きにして固定した。・・・

ちよっと弱いけど、何とか治った。

ゴール直前の立ちゴケで気分最悪、道を塞いでいた軽と運転していた老人を恨んだ。ミラーの修理代金を弁償して欲しいとさえ思った。下り道、暫くは不安で憂鬱な気分だった。が前をゆっくり走っている乗用車に追い付き、先に行ってくれと手を振られたあたりから運転に集中出来るようになった。その後も対向車を何台かやり過ごし無事下山出来た。料金所を通過する時は係りの人が手を振ってくれた。何事も無かったかのように手を振り返し走り抜けた。・・気付いたかなミラーのぐるぐる巻きテープ。



折れたミラー：ぐるぐる巻き



横峰寺駐車場の野鳥達の動画

<https://youtu.be/nKFcDbFArE>

兎に角疲れていた、寝不足で早く休みたかった。六十四番前寺を出たのが午後四時、二十分、野営地の「新浜市民の森キャンプ場」を目指した。食糧を仕入れて五時までに着けるか微妙だった。到着すると既に窓口は閉まっています、白い軽自動車一台停まっていた。うろうろしていると建屋の裏からお爺さんが現れた。管理人だった。

「キャンプか？」

「はい」

「うーん、しょうがねーなあ。もう五時過ぎてる。俺は帰るんだから」と言いながら閉まっている窓口の脇のポストまで行き、横から宿泊申し込み用紙を出してくれた。

「これに書いてここに入れて、キャンプ場所はあそこの第二キャンプ場を使って良い。水はあそこ、トイレはそこ。もう五時過ぎてる。俺は帰るんだから」

「はい、バイクはここで良いですか？」

「駄目、そこは通路だ、もう俺は帰るんだから・・バイクはここ」と枕木を埋め込んだ凹凸の場所を指さした。コケるかも知れないと思い舗装してある場所を指して・・



第二キャンプ場



夕食

「じゃあこっちはどうですか？」

「駄目、そこも通路だって。もう五時過ぎてる。俺は帰るんだから」

「それじゃあこっちは？」

「駄目だって言ってるだろ、通路だって、分かんね奴だなあ、もう五時過ぎてる。」

俺は帰るんだから・・・」

仕方ないので枕木の上に停めた。暗くなったら移動しようっと。

第二キャンプ場は芝が植えられ短く刈り込まれ手入れが行き届いていた。水場に行き口をひっくり返して全開にすると噴水状態になった。素っ裸になって水を浴びた。火照っていた体がやっと冷やされた。

夜中一時頃目が覚めた。外に出ると満月が明るく、黒い雲が左から右へゆっくり動いていた。湯を沸かしてお茶を入れて飲むと、少し元気が出て来て、今日の立ちゴケを考えることが出来た。そして他人のせいにして自分の愚かさに気がついた。確にあの年寄りにも問題はあった。でも冷静に考えてみる、そりゃ段差に斜めに突っ込めばコケるさ。俺の判断ミスだ。あの場合はバックしてもらおうべきだった。・・・それにしてもミラーの修理代金2万円くらいで済むだろうか・・・トホホ・・・また明日。

昨夜 新浜市民の森キャンプ場に雨は降らなかったが 夜露でテントはグッシヨリ濡れた。ライダースーツは雨対策で管理棟の玄関に広げておいたので無事だった。テントを少しだけ乾かして八時過ぎに出発した。

今日は寄り道メインの日だ。札所は三角寺一ヶ所だけで、UFOラインを走る。ちよつと雲行きが怪しい。雨になったら危険だし何より目当ての雄大な景色が台無しなので中止するつもりだった。取り敢えず寒風山トンネルを抜けUFOライン入り口まで行ってから、空模様を見て判断する事にして走り出した。

今朝、折れたミラーを括り付けたボトルホルダーの止め金具を増し締めしたのでガタツキが治り調子が良い。このまま行くか？でも車検は通らないだろうな。

走るにつれて天候は急速に回復した。所々まだガスは残っているが真っ青な空が眩しい。行ける、暫くこのまま晴れていくれ！頼む！

寒風山トンネルを抜けUFOライン入り口まで7百の細いクネクネ道にはうんざりした。殆どの急カーブはヘアピンになっていて、コターンを繰り返しながら登っていくようなイメージだ。それほど危険な道ではないが、出来れば帰りは通りたくない。

UFOラインは元々雄峰ラインと呼ばれていた位に眺めの良い道路だ。標高は1700位だったと思う。深い谷を見下ろしながら、緑に覆われた山々の稜線を走り抜ける。爽快な道路だ。道路に書かれた1百毎の数字10から12辺りでこの雄大な景色を味わえる。皆車やバイクを降りて写真を撮ったり、動画を撮影したりしている。トヨタのCMもこの付近で撮影されたようだ。それにしてもこんなに良い天気になるとは思ってもいなかった。感謝だ。

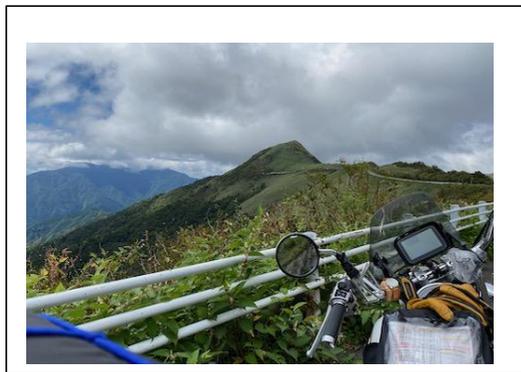
UFOラインはこれまで走ってきたお寺の参道に比べたら楽だ。ただ手入れが悪く、深い轍や穴が目立った。それらを避けながら走らねばならず油断は出来ない。眺めを満喫し石鎚山の登山口にもなっている「土小屋」まで下った。ここは石鎚山が間近に迫り、あのノコギリ状の細道も見える。モンベルの売店があるので、何か記念になる物を探したがめぼしい物は無かった。

店の人に帰り道について訊ねてみた。するとルートは三つしかない。一つ目はこのまま反対側に抜け石鎚スカイラインで下る。二つ目は県道四十号でダム湖経由で下る。三つ目は来た道に戻るだった。楽なのは石鎚スカイラインだが、三角寺からはアサツテの方向に

なる。ダム湖経由は来た道と大差ない位クネクネだそうだ。諦めて来た道に戻った。



UFO ラインの入り口



UFO ラインの動画

<https://youtu.be/TgRnreBpRak>



モンベル土小屋



石鎚山

無事六十五番三角寺を打って本日の寄り道メインの予定を終え、野営地「森と湖畔の公園 キャンプ場」へ向かった。念の為予約しておこうと電話を入れたが何度かけても出ない。三連休の後でひよっとしたら休みかも知れない・・・と諦めて近くの道の駅を探した。三角寺の納経所でも道の駅を教えて貰っていたのだが、道の駅の名前は分からないと言われた。仕方ないので検索して一番近い「霧の森」という所をナビにセットした。山の中を二十分ほど走って到着したが・・・本日休業・・・の大きな看板が立ってありひっそりとしていた。売店は閉まっていますが構わないのでここに決めて、食料調達の為コンビニを検索してナビにセットすると、来た道をしっかり辿ってローソンに着いた。

ローソンを出ようとバイクに戻った時だ。お爺さんが話しかけて来た。

「このバイク何CC？」

「750です」

「大きいね、これでお遍路廻ってるんだ」

ちよっと面倒臭いと思ったが暫く話していると面白いことが分かった。何と今日野営地に予定していた「森と湖畔の公園キャンプ場」の管理人をついこの間まで、六年間もやっていたというではないか。電話に出なかったというと・・

「一人だからなあ、外で作業していると聞こえないんだよ」

なる程、休みでは無かったようだが、もう五時を過ぎていたので受付は終わってしまった。近くに道の駅はありませんか？と聞いてみた。すると三角寺の情報と全く同じ道の駅を教えてください。でも名前はやはり分からないという。どうやら本日休業の道の駅より良さそうだ。

「・・そこを右に曲がって196号をちよっと行くと11号線の標識があるから、

11号線を走ってすぐだよ道の駅は、隣にコンビニがあるよ」

というので・・ナビに頼らず行ってみることにした。

11号線に入るのにちよと手こずったが無事乗れた。すぐだと言っていたが、一向に道の駅の看板が見えてこない。通り過ぎたかな？何処かで「ターンしよう」と探していると、道の駅の看板の矢印が出た。手前にコンビニもある。ここだ、でも唐突だなあ。普通は道の駅・・1百先・・とかの標識がまず出るもんだらう。

道の駅の名前は「とよはま」だった。時間が遅かったので店は閉まっていた店員も居ない。どうだろうかと偵察すると、野宿の遍路に最適の環境だと分かった。

まず、大きなタープが二張りあって、下にテントを張る事が出来る。雨を凌げる。トイレは洗浄機付きで近くにあり、水は水飲み台で上から下からたっぷり使える。テーブルと椅子も用意されている。タープの支柱には外部コンセントが貼り付けてあり生きいる。充電OK。更にコンビニも隣にある。ここで一晩ぐゅっくりどうぞ！と言われたような気がした。ローソンで出会ったお爺さんに感謝。

椅子に腰掛、酎ハイを飲みながら夕食を摘んでいると、何処からともなくまたちよっと若い目のお爺さんがやって来て話が始まった。面白い話が盛り沢山だった。相撲の谷町のまとめをやっていたとか、オートバイの販売をやって儲けたが結局破産したのだ、美味しいうどん屋の話だの、嘘か本当か分からないような内容で楽しませて頂きました。

最後にこの道の駅にある神社「黄金持ちの聖地」に付いて教えてくれた。何でもこの道



タープの下にテントを張る



黄金持ちの聖地神社

の駅で働いていた女の人がロト6で一等を当てて何億円だかをゲットした、その後も何人か当たりが出て神社が建つたとの事だった。いい話を聞いた明日出発前に必ずお参りして行こうと決めた。きっとご利益がある。

今日はなんて良い日だったんだろう・・・また明日。

道の駅とよはまの「黄金持ちの聖地」神社にしっかりお参りして出発した。神社の由来の書かれた看板があった。でもルート6がどうのこうのなんて説明は無かった。やはりウン・というより勢い余って放った出任せといった所かな。まあ沢山笑ったから良しとしよう。

まず六十六番雲辺寺へ向かった。最初に計画した最短ルートは危険だと後から分かったので、遠回りのルートを走った。道路は新しくて広く楽に駐車場に到着出来た。別にロープウェイのルートもあり整備されている。でもこの雲辺寺の新しく綺麗なトイレ、実は汲取式だ。

この雲辺寺は歩き遍路の時苦しかった札所の一つだ。否、NO1だ。余り通らないルートだったようで荒れていた。雨の中急坂の昇りが続いた。重たいリュック、休める場所も勿論ベンチも水も無い。余りに辛かったからか、光明真言を唱えて歩いていった。

あっさりバイクで登って来たが下りでミスった。分岐点を感じて右に曲がってしまった。理屈では遠回りの左を選ばなければいけなかった。暫く走って間違いに気づいたが、何だか走れそうだったしコタン出来そうな場所も見つからなかったのでそのまま走った。しかし徐々に狭くなり荒れて来た。この道は危険だから走ってはいけないという情報通り未整備のルートだった。足摺岬から宿毛へ抜ける県道二十一号より狭い、両側の路肩は草で覆われ、轍を残して真ん中にも草が生えてしまっている。ナビを見ると県道八号に交差することは間違いないので、我慢して走り続けた。途中土砂崩れの工事現場を通過した。対向車が全く無かったのとゆるい下り坂、晴天で路面が乾いていたので救われた。県道八号へは一度その下を潜って通り過ぎてから、大きくぐるりと廻って乗る。本当に危ない道だった。・・・私も言います。・・・車遍路で決してこの道を選んではいけない。・・・

兎に角、とても暑い日で体力を消耗した。打つ予定の札所は10ヶ所もあり最後が、七十一番弥谷寺だ。ここは参道入り口から本堂まで石段が六百五十段ある。・・・修行僧の為の石段です、ゆっくりお登りください。・・・なんていう看板がある位だ。

納経所が八時から変わったので、予定より一時間遅れてのスタートだったが、後半休憩を削り徐々に遅れを取り戻し、午後四時ちよつと過ぎに弥谷寺の駐車場にたどり着いた。体力エネルギー・・・最近はやディバッテリーと言うらしい・・・残量はほぼゼロに近く、厳しかったがパスするわけにもいかないので石段に踏み出した。

途中に大師堂があり・・・中には納経所がある・・・そこから更に石段を昇って行くと、

「ここまで四百五十段です」の看板がある。あとの二百段は手すりにすがって昇った。帰りは膝にきて辛かった。納経所で重ね印を貰ったあと長椅子に腰掛けて汗を拭いた。俯いたため息をついた。・・・ハツとして背を伸ばした。瞬間だが眠っていた。熱中症気味だったかも知れない。

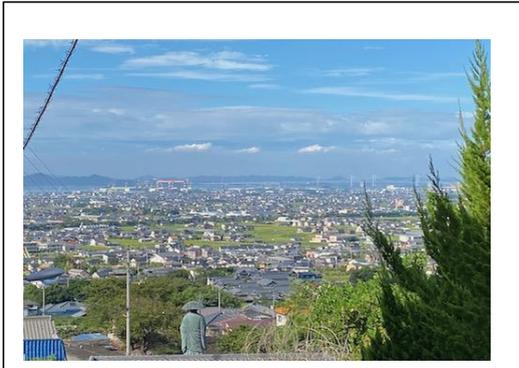
駐車場は砂利が敷かれているだけで舗装されていなかった。時間が遅かったので自分以外に車は停まっていなかった。砂利でも大きく回れば問題ないはずだ。だが走り出してすぐ僅かな傾斜にハンドルをとられ、倒してしまった。横峰寺と似たような状態で逆立ちに近かった。何度かトライしたが起こせなかった。疲れてもいた。助けを呼びに向かいの道の駅へ行った。ちょうど売店から出てきた若い男女に頼むと・・・良いですよ・・・気安く受けてくれた。・・・バイクは手を貸してもらおうと直ぐ起こせた。今度は損傷もない、エンジンもかかりほっと一安心。売店でお礼にジュースを買って渡そうとしたがもう走り去った後だった。・・・仕方ないのでジュースは返品した。

テントはこの道の駅「ふれあいパークみの・天然いやだに温泉」に張った。ここは歩きの際にも利用した好条件の野営地だ。温泉があるので車中泊の車が多く駐車場は結構混んでいる。五時の道の駅閉店まで少し間があったので、テントを張る前に温泉に入った。入湯料は七百元、温水プールも利用出来る。

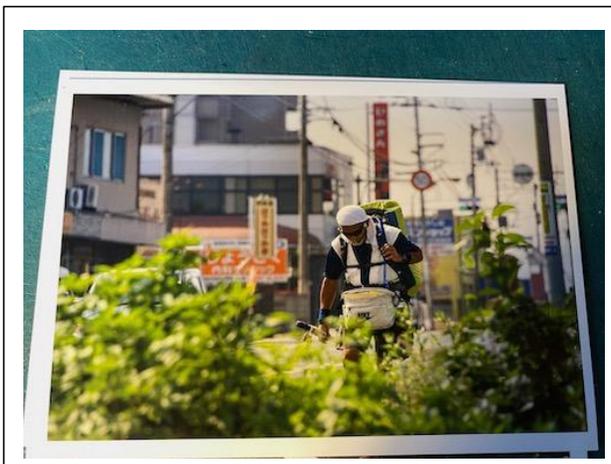
色々な湯船がありスーパー銭湯のようだ。勿論サウナもある。体を洗って湯船に浸かるが、体が熱っていて落ち着かないのでサウナ用の水風呂に入った。勢いよく頭まで一気に潜る。何度も繰り返して火照りを冷ました。・・・さっぱり！。



黄金持ちの聖地の由来



弥谷寺から善通寺市を見下ろす



道の駅内の天然いやだに温泉



出会ったプロのカメラマンが撮って送ってくれました。歩き遍路中の私です。・・・凄い格好だった。

今日も歩き遍路を何人も追い越した。野宿遍路らしい男が炎天下俯いて辛そうに歩いていた。自分もかつてあんな風に歩いた事を思い出した。
明日も10札所を打つ。楽しみは八栗寺のケーブルカーだ。おやすみなさい。
・・・また明日。

今日も晴れて暑くなった。七十六番金倉寺から八十五番八栗寺まで予定通り十札所を打てた。水分補給は札所に着いて一口、出る時また一口。途中コンビニでもガリガリ君で冷却。この繰り返しだった。ヘルメットの中も手袋の中も汗でびっしょりだ。帰ったら洗ってフアブリーズだ。

丸亀城の予定をキャンセルしたので何とか八栗寺ケーブルカー午後4時15分発に乗ることが出来た。このレトロで可愛いケーブルカーには是非乗ってみたいかった。歩き遍路の時はこのケーブルカー駅の脇に参道入り口があり、そこから急坂を延々と登った。帰りは車道を下ったが斜度21%の標識に唖然とした。また駐車場も無く、皆路駐だった。降り切った所には・・・コタンスペース駐車禁止・・・の看板があり、路上駐車は公認のようだった。しかし急坂での駐車は危険だ、ましてバイクはとんでもない・・・と言う事情が分かっていた事もあり。ここはケーブルカー扱だ。

八栗寺ケーブルカーはまるで遊園地のアトラクションのようだ。車両の顔つきは幼稚園の動物送迎バスにも似て愛嬌がある。ボンネットバスにも似ている。昔はこんなデザインに未来を感じたのかも知れない。改札で切符を切った女性がそのまま運転席に座った。操縦しているのか座っているだけなのか良く分からなかった。冷房は無し、首振り扇風機が左右に2台ずつ計4台フル回転していた。車両は赤色と青色の二台が交互に行ったり来たりして中間地点ですれ違う。終始キーキーと金属の擦れるような音を発して揺れている。この乗り心地の悪さがまたいい。すれ違う時は、音も揺れも大きくなり・・・来たぞ感が高まる・・・満喫しました！八栗寺ケーブルカー。・・・往復千円。



疲れてますね・・・嬉しさ半減



動画です。すれ違えます。

<https://youtu.be/JUqHrX2k-j0>

駐車場に戻ると5時になった。日が暮れる前に野営地に着いてテントを張らねば面倒だ。予定していた二つ池公園は野営の可否も分からない。この時間にそんなリスクは犯せないので、バイクの機動力を生かして、歩き遍路の時にお世話になった「道の駅なお」まで30分程走った。

「道の駅なお」は八十八番大窪寺の10分手前にある。道路を挟んで「お遍路交流サロン」があり、ここでは「お遍路大使」の証書が貰える。今日は八十六番志度寺と八十七番長尾寺を飛ばして来た。明日は八十七番、八十六番と逆打ちし、また戻って最後の八十八番大窪寺を打って満願だ。

道の駅に着くと、トラックが一台停まっているだけだった。とっくに店は閉まりシーンとしている。暮れる前にテントを張らねばと急いだ。やはりここもイベント用のタープがあり、その下に張った。

酎ハイを飲みながら夕食を食べ一息着いたら、またキャンプチェアに座ったまま寝てしまった。気づくと十時を回っていた。何もしていない。機器の充電も、今日の札所の整理も、明日の準備も出来ていない・・・日記も。

湯を沸かしてコーヒーを入れた。疲れが溜まっている。車やバイクの遍路はどれほど楽で楽しいだろうと期待してたが、全然楽じゃ無い、一日で打てる札所の数が多い分疲れるので歩きと変わらない。それに歩き遍路のような驚きや充実感が味わえない事も分かった。突然目の前に現れる青い海・砕け散る波、振り返ると遠く眼下に広がる街や山々。肌で感じる自然との一体感や感動・・・は少なかった。人との出会いも、会話も殆ど無いに等しかった。歩き遍路道と車遍路道の違いも大きい・・・つまりこういう事なのか・・・。

バイク遍路はバイク旅では無い・・・あくまでお遍路なのだ。そこを思い違いはいけない。移動手段が足からバイクに変わったただけだ。八十八ヶ所の札所を廻り結願を目指す。移動手段が違えば、当然それに要する時間も空間も異なり、プラスαも違ってくる。

αとは「縁の交差」だ。人それぞれが持っている縁、自然が持っている縁、太陽が月が、海が山が、木が、鳥が、虫が、動物が、あらゆる物質・生命がそれぞれ持っている「縁」が交差した瞬間、偶然は必然という事象になる。それは喜びだったり悲しみだったり、感動や笑い、恐怖、驚き、感謝、時には奇跡だったりもする。バイク遍路は歩き遍路と「比べると」プラスαが少ないのは当然だ。あれが無かった、これも足りなかったとブツブツ言っては、折角達成した結願にケチがつくというもんだ。・・・つまりこういう事だ・・・。

視点を変えてバイク旅として今回のお遍路を見てみる。何と過酷で危険で充実した旅だったんだろう。普通バイク旅はこんなに石段登ったり降りたりやらないぜ、こんなデカイオンロードバイクでこんな狭い山道や、大体参道なんて走らないよ、おまけにお寺からお寺へ八十八ヶ所参拝までして、次から次から現れる過酷なワインディングロードを走り切った。・・・やっただじゃないか・・・。・・・という事さ・・・。

明日は残りの3札所を打ち、一番霊山寺に戻り。満願証書を受け取る。その足で大塚国際美術館に行き、システイナホールや陶板で焼かれた世界の実物大の名画の数々を見る。

・そして・・・またフェリーに乗って・・・おうちにかえる。

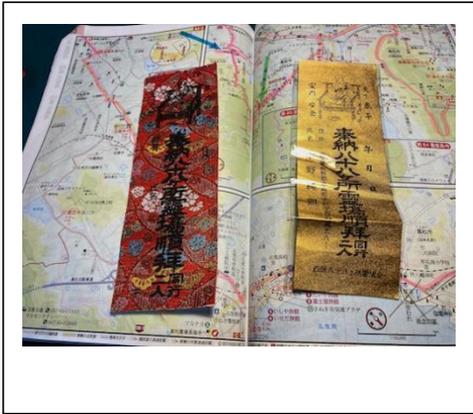
そうだ、八十七番長尾寺でこんな事があった。献灯し線香をあげ、参拝しようと本堂の階段を上がると、老夫婦が納め札入れを覗き、何やらごそごそやっていた。はあはあ金の札を探しているんだなと分かった。・・・札を入れようと近づくと、声を掛けられた。

「ほれっ、中野さんのや」・金の納め札だ、裏には六百〇〇回と印刷されていた。

「まだあるで、ほれっ」・六百四十回と印刷された金の納め札を渡してくれた。

「財布に入れとき、お守りになる。これもあげる、私は十二回だけだな」と言っ

ご自分の錦糸織の赤い納め札を一枚くれた。・・・素直に頂戴して財布に収めた。このご夫婦とは大窪寺でもお会いした。



頂いた赤と金の納め札



八十八番大窪寺到着



大塚国際美術館入り口

システィナホールの動画もどうぞ

<https://youtu.be/V0nwgUsa-t8>



霊山寺で発行してくれた満願証書

もうひとつ、長尾寺を出てコンビニの駐車場で車止めに座り、納経帳の重ね印をチェックした。とんでもない事が判明した。高知の三十番善楽寺だけ重ね印が無かった。札所は多分飛ばしていないので、暑さで納経所に寄らず次の札所に向かってしまったようだ。戻る事も考えたが山越えになり、今からは無理だ。・・・諦めて宿題にさせてもらった。それでも「満願証書」はもらえた。・・・感謝。

お遍路 旅日記 バイク編 おしまい